

査読を制する者は論文を制する 医学論文査読のお作法

大前 憲史 著/福原 俊一 監修

＜書評者＞ 小島 祥敬（福島県立医科大学教授・泌尿器科学講座）



論文の書き方や医療統計について指南する書籍は数あれど、査読について、このように体系立ててその方法論を分かりやすく解説された書籍を私は知らない。私自身、論文はもちろん、学会発表や研究助成に申請された研究など、これまで査読者として査読に携わることは多くあった。しかし、査読についてしっかり学んだかと問われれば、答えは残念ながら、「No」である。本書は、研究者としてまだキャリアの浅い、若い先生だけでなく、査読者としてすでにある程度経験を積まれた先生にあって、これ1冊で研究者としてのレベルをぐっと引き上げてくれる、大変な良書である。

◆本書の特徴

福原俊一先生のベストセラー『臨床研究の道標』の副読本シリーズ第1作として出版された本書では、臨床疫学・臨床統計の専門家であり、なおかつ、臨床医としても活躍する著者（泌尿器科の指導医・専門医でもある）ならではの視点で、さまざまな角度から査読について述べられている。「そも

そも査読とは何なのか」「良識ある査読者になるために」「査読は人のためならず」など、基本的だが重要かつ切実な話題から、最終章では「実践編」と題して、実際の論文を題材に「お作法」に沿って査読するプロセスが明快に再現される。著休め的に書かれたコラムには、論文著者として誰もが経験する、いわゆる「トンデモ査読」の話や査読コメントへの対応の仕方など、興味をそそるトピックが読者を飽きさせない。そして、何より、全体を通して大変読みやすい。

◆6つのステップで解説される 「査読のお作法」

本書が、他に類を見ない画期的な書籍として称賛されるべき理由の最たるは、やはり、これまで明らかにされてこなかった査読の工程を、「お作法」として6つのステップに分解・整理し、誰もが理解しやすいフレームワークに落とし込んだことであろう。いずれのステップも論理的かつ実践的で、読んでいて非常に納得させられるし、すぐにでも取り入れられる。

なかでも特記すべきは、研究の重要性を評価する「PIONEERチェック」である。私自身の経験においても、研究の意義や重要性の評価は時に骨の折れる作業であったが、今後は、より目的意識を持って客観的な評価を行うことができるかと確信している。

◆査読は医学エビデンス構築の基盤

査読は、医学研究の新たな発見が世に出て、確固たるエビデンスとして受け入れられるために必ず通らなければいけないプロセスであり、基盤となるものである。「より多くの人にもっと査読に関心を持ってもらいたい」という、本書に込められた著者の強い思いが、できるだけ多くの人のもとに届くことを私も切に願っている。

● A5 頁168 2020年12月
定価：本体3,000円＋税
[ISBN-13: 978-4903803289]
特定非営利活動法人 健康医療
評価研究機構刊